「手で作る小さな本の楽しみ」　名東高校　2013.12.14（土）13:00-

話に夢中になると言うのを忘れてしまうので、早めにアナウンスしておきます。
今日は、実際に現物を見てもらおうと思って、豆本をいろいろと持ってきました。
豆本を持って回ってもらう係の方がいらっしゃいます。触れるものと、触れない物とがあります。今日はせっかくの機会なので、ぞんぶんに楽しんで見て下さい。
また、販売があります。後ろの特設ブースになります。

＜１　自己紹介と豆本概要＞

豆本作家、文筆家、赤井都です。
最初に、ざっと自己紹介します。
私は名東高校の二期生です。名東高校ができたばかりの、ピカピカの新校舎の頃です。周りは何もなくて、バス停から見上げると、丘の上に新校舎がそびえたっているのが見えました。そんな頃に、ここに通っていました。赤井、って、そんな生徒いたかなあ、聞き覚えのない名前だなあ、と思われたとしても当然です。赤井都はペンネームです。私は姉と共に、名東に通っていました。姉は英語科の一期生です。名東高校の創世記・創立記に、かつて「池田姉妹」として有名だった姉妹の、二番目のほうが私です。姉は英語科一期生の首席で、津田塾と御茶ノ水とＩＣＵにうかって、ＩＣＵに行った人で、今はインドネシアで雑誌の編集長をしています。華々しいですね。あやかりたい？　秀才の秘密を、妹の目からお教えしましょうか。姉は、一言でいえば、辛抱強い人です。勉強ってわからないところから始まりますね。最初は全部わからないことを勉強するわけですね。わからないことも、わかるまでじっと、わからないということに耐えて、理解するまで辛抱できる。姉はそのことができる人です。
一方、私はというと、理解するために考えるというよりも、なんでこんな勉強をしなくちゃいけないんだろう、などと、余計なことを考えてしまうタイプです。わからないことをつまらなく感じて、逃げ出してほかへ遊びに行ってしまう。好きなことしかやりたくないわがままです。ただし、好きだと、のめりこむ、凝り性なタイプ。そして、案外、好きなことはいっぱいあったりして、気が散るタイプ。うまくすれば、気が多いのでオールマイティーです。

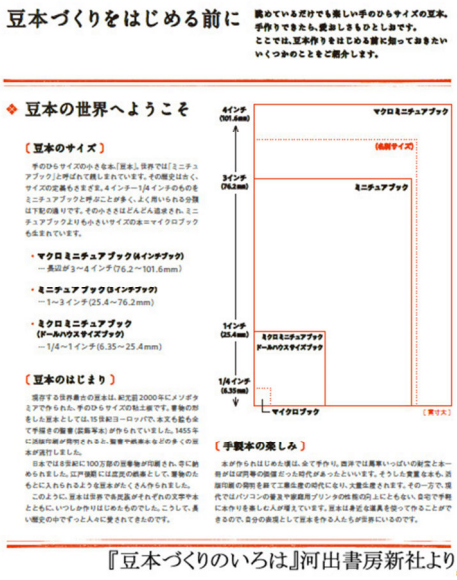
そんなふうなので、私は高校での成績はふつうでした。豊橋技術科学大学に入学して、建築・都市計画を専攻し、工学博士号を取得します。この時は、私は、「おおきな都市を作る」つもりでいました。とはいえ、他にも夢があって、そうした建築の勉強と並行して、よな

よな小説を書いていました。20 代後半に、マレーシアの大学院に留学していた最中に、集英社の純文学の新人賞である「すばる文学賞」最終候補になります。1998 年のことです。建築の勉強と、小説と、二つのピークが、同時に来てしまった。そして、帰国して、賞は逃し、建築分野に就職もせず、一時期ライター活動を経て、2002 年・32 歳の時から、自分で書いたストーリーを自分で本に仕立てて販売するという、個人誌制作販売を始めました。

本を自作して 2 年後の 2004 年に、作った本はたまたま小さいサイズになり、その時に、それを目にした古書店主が「これは豆本だねー」と言いました。それで、「豆本」の世界があると初めて知りました。私はそれまで、豆本というものを知らなかったけれど、実は、本の中には、豆本というジャンルがある。豆本の熱心なコレクターが、世界中に、私は知らなかったけれど、実は存在する。そのことを知りました。
豆本なら、自分の手で、いくらでも凝って、好きに作れます。自分で書いた物語を、商業誌に載せようとがんばるだけではなくて、お話にふさわしい、小さくてきれいな本の形にして、読者に届けたい。そんな思いから、独学でハードカバーの豆本作りに挑戦しました。
初めて作ったハードカバー豆本が、2006 年に、国際的な豆本コンクールで、日本人初のグランプリを受賞しました。アメリカに本拠地があるミニチュアブックソサエティのコンペティションです。英語のメールが私のもとに届いて、辞書を片手に一生懸命訳して、どう考えても、あなたが受賞しました、って書いてあるな、と。そういうことでした。翌年の、2007 年にも連続受賞しました。
受賞後、基礎を身につけたいと考えて、通常サイズの手製本と、本の修理を 7 年かけて東京で学び、現在に至ります。現在は東京圏を中心に展示や教室を行っています。

こうして、あっというまに、建築家志望や小説家志望から、本の世界に入ってしまいました。
それだけ、手で作る本に魅力を感じたということです。
本を作るというと、つまり、本の中身から外側まで、全部を作る。著作・編集・装丁・印刷・製本・発行・販売を一人で行って、本を作っています。
小さな部品を組み立てて本を作るというのは、発想としては、パーツを統合していく作業なので、部材が組み立てられて建築になり、建築が組み合わさって都市になるのと似ています。
本の内容になる文章も、自分のこれまでの、ものかき修行が活きて、中身を自分で書くことができます。
それを、好きな形に、作れる。これは、楽しい。
これまでしてきた建築や小説の勉強が、遠い回り道ではなくて、無駄にはなっていないと感じます。むしろ、全てが統合されて、総合的に自分で作ることができる。それが気に入っています。

さて、豆本、と既にこれまでも言葉を使ってしまいましたが、豆本って何？
サイズの定義ってあるの？　発祥の地はどこ？　とよく聞かれます。
手短に、豆本の概要について、お話しましょう。



豆本づくりをはじめる前に

眺めているだけでも楽しい手のひらサイズの豆本。
手作りできたら、愛おしさもひとしおです。
ここでは、豆本作りをはじめる前に知っておきたいいくつかのことをご紹介します。

豆本の世界へようこそ

〔豆本のサイズ〕

手のひらサイズの小さな本。「豆本」。世界では「ミニチュアブック」と呼ばれて親しまれています。その概念はきわめて、サイズの定義もさまざま。4インチ－1/4インチのものをミニチュアブックと呼ぶことが多く、よく用いられる分類は下記の通りです。その小ささはどんどん追求され、ミニチュアブックよりも小さいサイズの本＝マイクロブックも生まれています。

・マクロ ミニチュア ブック（4インチブック）
　－辺が3～4インチ（76.2～101.6mm）

・ミニチュア ブック（3インチブック）
　－1～3インチ（25.4～76.2mm）

・ミクロ ミニチュア ブック
　（ドールハウスサイズブック）
　－1/4～1インチ（6.35～25.4mm）

〔豆本のはじまり〕

現存する世界最古の豆本は、紀元前2000年にメソポタミアで作られた、手のひらサイズの粘土板です。書物の形をした豆本としては、15世紀ヨーロッパで、本文も絵も全て手描きの聖書（図版写真）が作られていました。1455年に活版印刷が開始されると、聖書や祈祭本などの多くの豆本が流行しました。

日本では8世紀に100万部の豆書物が印刷され、寺に納められました。江戸時代には武士の嗜みとして、書物のなかに入れられるような豆本がたくさんつくられました。

このように、豆本は世界でも民族がそれぞれの文字や文とともに、いつしかかりはじめたものでした。こうして、長い歴史の中ですっと人々に愛されてきたのです。

4インチ（101.6mm）
3インチ（76.2mm）
1インチ（25.4mm）
1/4インチ（6.35mm）
マクロミニチュアブック
（6倍サイズ）
ミニチュアブック
ミクロミニチュアブック
ドールハウスサイズブック
マイクロブック
（実寸大）

〔手製本の楽しみ〕

本がつくられはじめた頃は、全て手作り。西洋では高等いっぱいの制定と一冊がほぼ同等の価値だった時代があったといいます。そうした貴重な本も、活版印刷の開発を経て二毒生産の時代になり、大量に出まわります。その一方で、現代ではパソコンの普及や家庭用プリンタの性能の向上にともない、自宅で手軽にあかりを楽しむ人が増えています。豆本は身近な道具を使ってやることができるので、自分の表現として豆本をやる人たちが世界にいるのです。

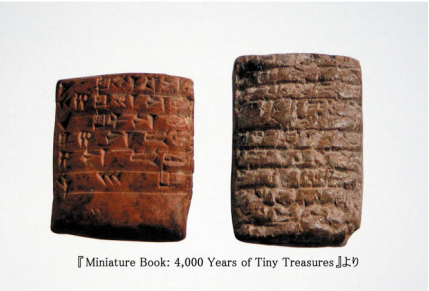
『豆本づくりのいろは』河出書房新社より

【001】

「豆本」と日本語で言った時、サイズの定義はあまりされずにきました。
一方、海外で、「ミニチュアブック」は、これまでに有名コレクターたちが、サイズの議論を、長年にわたって、してきました。その議論の積み重ねの結果、「ミニチュアブック」は３インチ以内という理解をされます。３インチというと、76mm。これが代表的な典型的な大きさになります。その周辺のサイズも好まれていて、より大きく、縦 10cm くらいのサイズにすれば字や絵がしっかり入って読み応えのある本になります。より小さくすれば、ドールハウスにぴったりなかわいい見かけの本になります。私は、小さくも、大きくも、その時にしたい表現に合わせて、本の大きさを決めて作っています。実は私は、小さい物が好きだから豆本を作っているわけではありません。自分の表現として、本を作ってみたら、自分の表現に最適なサイズが、手のひらにおさまるくらいの小さな本だった。ということです。
そして、「小さな本を作ってしまったなあ」と思ったら、実はそれが、歴史のあるもので、以前から、世界各国にある表現形式だった。海外ではミニチュアブックと呼ばれ、日本語で豆本と呼ばれるものです。日本では豆本ブームが昭和の時代にありました。その当時の豆本を知っている方も多いかもしれませんね。しかしそれよりもっと前から豆本という物は存在していました。

【002】江戸時代には、雛道具の一つとして、源氏物語の豆本一揃いが、うるしの函入りで作られていました。

【003】それよりもさらに前、さかのぼること８世紀に、日本で１００万部の豆本が印刷されました。この頃の本というものは、巻物の形をしていたから、豆巻物になります。ではそれよりもさらに以前、いつから小さな本があるかというと、



【004】紀元前２０００年前の、チグリス川のほとりにあった、小さな粘土板にまで、豆本の歴史はさかのぼります。この当時の本は、粘土板の形をしていたので、これが人類最古の豆本になります。つまり、豆本とは、人類がことばの

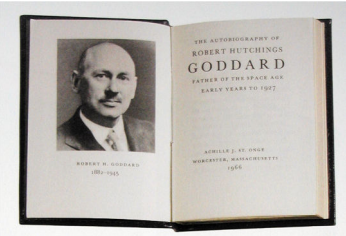
初めから作ってきた本。書き言葉と、本の歴史と共に、小さな本はあった、ということになります。

なんだかおおげさだなあ。豆本ってそんなに昔からあったわりには、目立たないんじゃないの。ではこれから、豆本のクイズを出します。yes か no か、頭の中で考えてみて下さい。

一問目　豆本は月に行って帰ってきたことがある
二問目　表紙が金銀宝石で覆われた豆本が 17 世紀にパリなどで作られていた
三問目　ナポレオンは遠征の途上、豆本を携行し、当時流行の文学作品を読んでいた
四問目　アブラハム・リンカーンの奴隷解放宣言は、当初豆本の形で発行された
五問目　ピカソが絵をかいた豆本が存在する

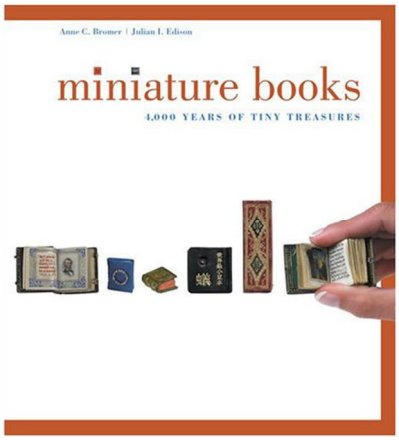
答えは、全部、yes です。

たとえば、月に行った豆本はこれ。



『Miniature Book: 4,000 Years of Tiny Treasures』より

【005】ロケット用の燃料を開発したゴダート博士の伝記本です。
もっと知りたければ、この本を読んで下さい。



【006】ミニチュアブック・4000 年の歴史

また、このあたりの話は、私の著書本にもちらりと書いてあります。私の著書本は 3 冊出ています。

【007】『豆本づくりのいろは』今お話しした、サイズや歴史の話など書いてあります。今日販売もあります。

【008】台湾語に翻訳された本です。台湾にも豆本ファンがいます。世界中で、豆本を楽しむ人たちがいます。

【009】『そのまま豆本』は、切って作れるキット集です。印刷ずみのページを、切り取って組み立てれば本ができます。今日はこの本から作れる豆本の見本を持って回ってもらいます。

【010】『楽しい豆本の作りかた』11 月に出たばかりの本です。豆本まめちしきも載っています。アーティスツブックが載っています。

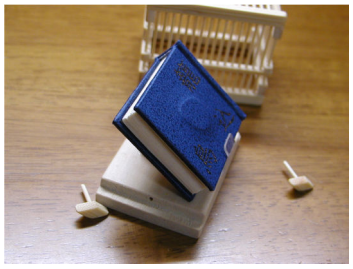
＜２　ミニチュアブックのいろいろな形＞

さて、豆本というものに、ちょっと理解が深まってきたと思います。
私の経歴で、ミニチュアブックソサエティのコンペティションで受賞したと、自己紹介しました。
ミニチュアブックコンペティション、それって何？　ということを、もう少し詳しくお話しましょう。これは、全世界から豆本を応募して優秀作を決めるコンペです。ミニチュアブックソサエティは毎年、メンバーが集まって、三日間にわたり、ミーティングを行い、豆本マーケットや豆本オークションや、豆本コンペティションを行う世界大会を開いています。開催場所は、アメリカや、カナダなど北米が中心になっています。
ミニチュアブックソサエティはこの大会を「コンクラーベ」と呼んでいます。
コンクラーベって、わかりますか？　辞書をひくと、枢機卿を選ぶ大会、みたいに書いてあるかと思います。豆本でコンクラーベって。おおげさですよね。

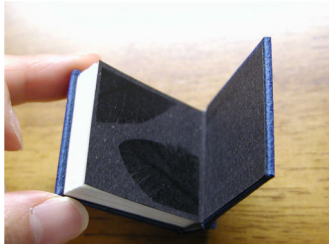
ソサエティのメンバーは、もちろん、小さい本が好き、という人たちでしょう。でもそれだけでわざわざ？　豆本のために、全世界から集まる？
私としては、人類のはじめからある、小さな本の形には、世代や国を超えて、心を躍らせる何か、根源的なものがある、と感じています。私としては、芸術の表現形式としての、可能性を感じています。でも、これもおおげさな話ですね。まあ、多くの方にとっては、「あなたも好きねえ」、くらいの感覚だろうと思いますね。

では、もっと具体的な話に移りましょう。実際にどんな豆本を作っているか。
私の受賞作をお見せします。

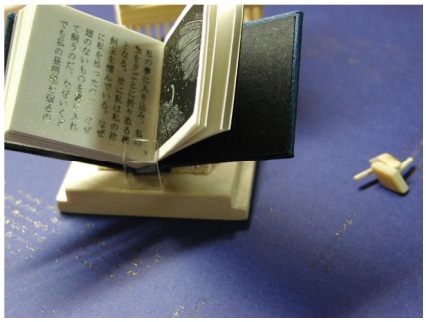
【011】『かごめどり』というタイトルの本です。


【012】この本は、台座の上に斜めに立って、上から籠がかぶさります。

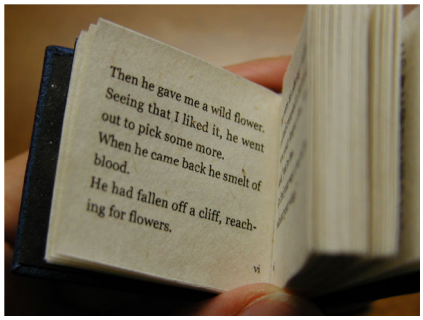
【013】本の表紙には、エンボスで、卵の形。タイトル文字には金色箔もつけてあります。


【014】見返しには、黒地に黒で、絵を印刷。これの印刷はコンビニのコピーです。

【015】中には、木口木版の挿絵と、文章。文章は私のオリジナルで、挿画はこのストーリーを読んで、共感した版画家さんが刷り下ろしたものです。文章の部分は、パソコンのプリンターです。



【016】文章の上にも金色箔がつけてあって、ページをめくると、金の光がきらっと羽ばたきます。この箔は、東急ハンズで買ったものですよ。



【017】ストーリーに連動して、籠に入れるデザインにしたので、ストーリーをわかってほしいと思い、後ろのほうには英語訳をつけています。これは、インターネットで知り合った翻訳家に英訳をしてもらいました。

【018】籠に入ったところと、アメリカから届いた賞状です。

コンペティションでは、
全世界、この時は、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、スペイン、チェコ等各国から寄せられた豆本を、ブックアートやアートの専門家たちが審査しました。

審査項目は、オリジナリティ・内容を反映した適切なデザイン・アピール・クラフトマンシップ。そうした項目を、印刷・デザイン・画・製本の観点において評価します。22 年の歴史のあるこの国際豆本コンペで、日本から初受賞しました。選評では、「あらゆる面にわたってクリエイティブ」と評されました。

メールには、また応募して下さいね、と書かれていました。翌年応募して、受賞した豆本は、こういうものでした。

【019】青い和紙の函の中に、ふわふわの雲のような物が、入っています。

【020】モヘアのジャケットをかぶせた、本です。真ん中からタイトルが読めます。

【021】本を開くと、まずは青い扉の紙があります。

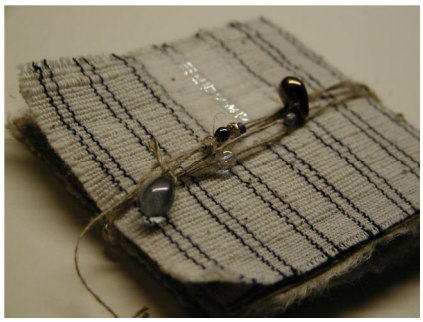
【022】中は、英語の訳が少しと、日本語の文章。文章は、私のオリジナルストーリーです。印刷は、この時は活版印刷です。

【023】届いた賞状です。

このように、また全く違う物を、作りました。
ひとくちに、豆本、と言っても、デザインはさまざま可能です。

その他に、私が作ったものを、デザインの一例としてお見せします。

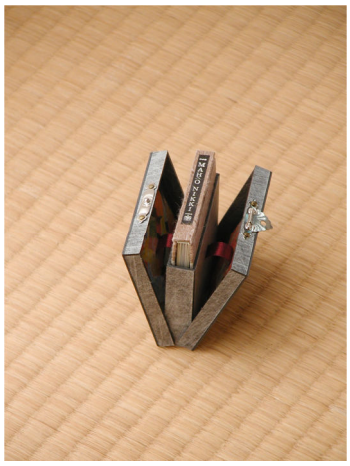
【024】布表紙で、函に入っている本です。もちろん函も手作りで、本に合わせたぴったりのサイズとデザインにしています。


【025】布を表紙にして、タイトルは箔押し。ガラスビーズで飾った、柔らかい本です。

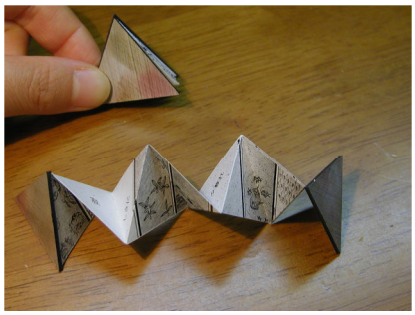
【026】革を表紙にした本。タイトルの部分は、別の色の革を貼り込んでいます。

【027】函に入った、ボックスセット。一連のストーリーを、一つの函に収めました。

【028】ページをわざとくしゃくしゃにしてから、綴じた本。表紙は、金属のようなプリントの紙です。

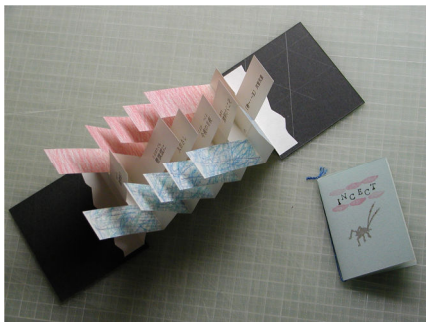
 【029】函を開くと、本が自動的に上へせりあがっていく、仕掛けのある函に入った本。

【030】ハート型の革の本。丸い革の筒に入り、鉄箱に入っています。



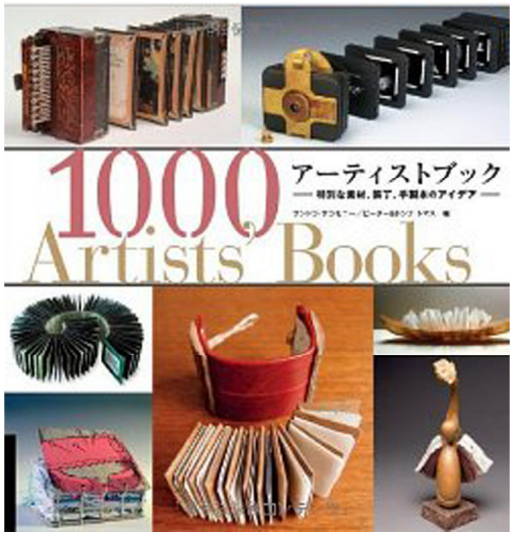
【031】三角形の形の本。一枚のページが、三角の形をしています。

【032】マカロンやクッキーの間の紙が、本のページになっています。



【033】折本の一種で、フラッグブック、旗の本、と呼ばれるタイプです。こちらは写真ではなかなかわかりづらいので、現物も持ってきていますので、直にも触ってみて下さい。

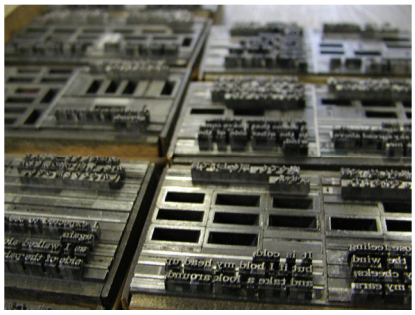
【034】これも折本の一種で、畳まれたページを開いていくと、らせん形になります。紙の力が強くて、ばねのように開いてしまうので、表紙はマグネットで留めています。

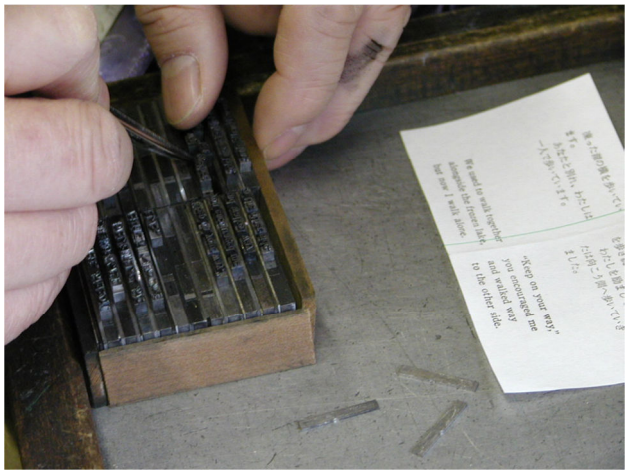


【035】さて、このように、ひとくちに本、といっても、さまざまな形があること。表現は多様であること。感じていただけたかと思います。本、という表現形式は、芸術の中でも、いまや最前線に来ている部分があります。その可能性を、アーティスツブック、と名付けて見せてくれるのがこの本です。私の豆本も、日本人で唯一、この本に掲載されています。この本には、豆本に限らずさまざまなアーティスツブックが、1000 枚の写真で掲載されています。

＜3　本を作る過程＞

さて、いろいろな本があるなあ。と感じていただけたところで、それでは、次に、具体的に、どんなふうにして本を作っているか。本を作る作業の例を、お見せします。
先ほど、受賞作をお見せした時に、活版印刷、という耳慣れない言葉を使ってしまいました。ご存知ですか、活版印刷？　活版印刷とは、活字を使った印刷技術、印刷方法のことです。実際にお見せします。

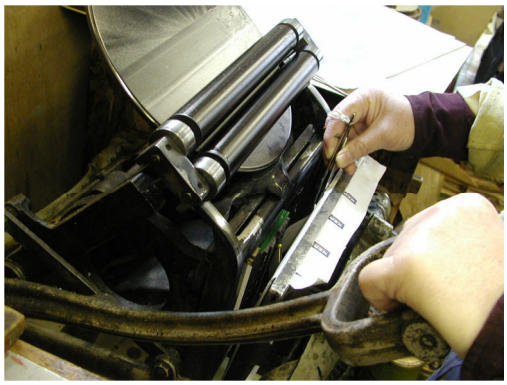

【036】鉛で鋳造した文字を、組んで、版にします。でっぱっているところにだけインキがついて、転写されて、印刷ができるという仕組みです。金属製の大きなハンコみたいなものです。これは、実際に、私が豆本を作った時の、組版です。



【037】文字を組むのも、修正も、ピンセットなどを使って、手作業です。これは、文字を校正しているところです。一枚刷ってみて、その刷った物を見て、間違えている文字を直したり、文字の間隔を、より美的に修正したりします。私は指示を出しています。

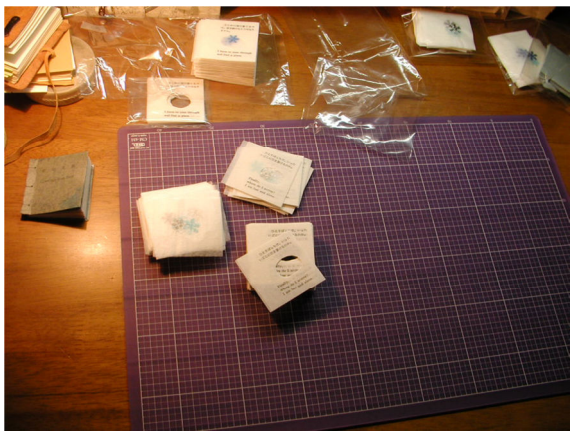
【038】実際に刷るのは、金属は硬いですから、ハンコを押すみたいに手だけではうまくいきません。こんな機械が必要になります。これは一番小さな、テキンと俗に呼ばれている印刷機です。組版と印刷をしてくれるのは、こちらのベテランの活版印刷家です。まずは、インキを、丸い円盤の上に、平らに伸ばします。それをローラーにつけます。

【039】版と紙を、機械にセットします。

 【040】刷った紙を取り出します。この豆本の時には、薄い和紙に印刷したので、インキで紙が版にくっついてしまいます。それをピンセットでとりはずします。

【041】刷った紙を見てみて、よし！これでいい！となったら、また一枚を同じように刷ります。こうして、一枚ずつ、一枚ずつ、手差しで、印刷していきます。当然ながら、一ページ欠けても、本になりません。ページものは、根気と集中力が必要な作業です。

【042】さて、一方で、私のほうでは、印刷しないパーツも準備しておきます。これは、雪の結晶の形に、青い紙を切り抜いて、がんぴの和紙に貼り込んで、ページを作っているところです。

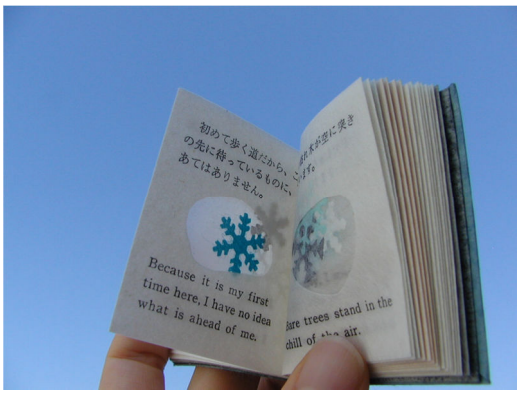


【043】全てのページを揃えて、加工します。穴を切り抜いたり、紙を挟み込んだりしています。

【044】こんな机で、作業しています。

【045】表紙をつけて、綴じ穴をあけたところ。この本は和綴じで綴じます。

【046】本が完成しました。



【047】雪の結晶のページと、くりぬいたページとが組み合わさって、本になりました。

文字を活版で、手間暇かけて印刷したのは、プリンターに通らない和紙を、本のページとして使いたい、と思ったからです。外国人から、和紙は憧れをもってみられる、上質な素材です。日本にいるのなら、和紙を使って本を作りたい。そして、こうして実際に印刷してみると、和紙に活版印刷の味わいは、非常に芸術的な仕上がりでした。深い味わいがあり、ハンコと同じなので一点ものに刷りあがる。本としての保存性、耐久性にも優れている。手作りの本の味わいと、印刷の味わいとが、よくあう。

英文は、私の前の作品を気に入ってくれたアメリカ人が、詩的に訳してくれた英文です。電子メールでのやりとりだけで、会ったことはありませんが、いい英文をくれました。バイリンガルの人がこれを読んで、二つの言語が響き合っているような不思議な感覚、と言っていました。

【048】東京都内のギャラリーで、展示販売している例です。

【049】この豆本は、新聞にも掲載されました。朝日ヘラルド。題字の下に、ビルゲイツと並んで載りました。

【050】女性誌にも掲載されたこともあります。豆本ってブームだよね、と思った人もいるかもしれませんが、豆本ブームを作った中の一人は私です。

【051】散歩の達人という雑誌の表紙にも、なりました。

【052】孫の力、という雑誌のグラビアページで紹介されたこともあります。

＜４　一人の高校生が天職にたどりつくまで＞

さて、豆本の数々を、見ていただきました。
こういう物を作っている私も、かつては、この校舎で学ぶ一人の生徒であったわけです
一人の名東高校生が、どうしてこんな変わったことをするようになったのか。
これまでにも、少しお話しました。私は、気が散る、気が多いタイプだった、と言いました。うまくすればオールマイティー。でもうまくいかなかったら、器用貧乏かも。
名東高校で学んだことは、さまざまあります。これから、名東高校時代を振り返り、教育の成果をかみしめながら、内面の話もさせていただきます。豆本ってあまりにも特殊かもしれませんが、職業探しや、ものづくりの考え方の話として、こと豆本に限らず、参考になることがあるかもしれません。

【053】名東では、能楽研究部に所属していました。大きな舞台を踏ませてもらって、度胸がつくようになりました。能研は、私がいた時には、部員数が一学年に３人とか２人とかの小さな部活でした。

【054】一番偉そうにしている左端の部長が私です。三年生で、引退する頃には、部員数がこんなに増えていました。私の舞を見て、和久君が入部します。将来、能楽師になる和久君です。自分ががんばったことで、気づかないうちに、人に影響を与えることがあるんだなと、社会の中にある自分を、感じたきっかけになりました。

【055】楽しいこともあった半面、内面的には、かなり暗めの子でした。高２の終わりに描いた絵です。画面にあるのは、全部、文字なのですが、他の人には読めない、自分で考案した言語です。私は小学生の頃、いじめを受けていました。それ以来、ずっと人間不信でした。家庭も不和が多くて、家の中にも外にも、いたくない。北区の自宅から、遠い名東まで通って、東の空気はおいしいなあ、と思っていました。授業が終わっても、作法室と図書館を居場所にして、いりびたっていました。そうでなければ、高校から駅まで、時間をかけて歩いてみたりして、傍目からはふらふら徘徊しているように見えたことも多かったと思いますが、その時も、不審者扱いされず、勉学に疲れた名東生が極楽（地名）の丘を歩いているな、程度に、温かく見守ってくれた地域の皆さんや、当時の先生方には、感謝しています。

【056】これは文化祭で描いたポスターです。三年生は、受験に備えて、文化祭でたいしたことをやらないのですが、私たちは自作の演劇をしました。なぜか、クラスの青春がこの秋に爆発して、私が脚本を

書き、ポスターも描きました。皆で熱に浮かされたようでした。ポスターは模造紙３枚分で、これを体育館の手すりからぶら下げました。三年生だからやりたいほうだい。楽しい思い出です。演劇をやる、となったら、演技のできる子が現れたりして、自分の世界を持っている子は私に限らず多かった気がします。この時も、画面に字が書いてありますが、これはクラス全員の名前を、アルファベットで。主役の子も、小道具、音響に至るまで、同じ大きさの字で書きました。友達っていいな、一人ではできない演劇というものが、人が集まるとできた、とこれもまた、社会性を感じた、私にとっては貴重な出来事になりました。

【057】そうして、文化祭で燃え尽きて灰になりましたが、幸い、建築の大学生になりました。大学生になってからは、アルバイトをしたり奨学金を取ったりして、建築や都市を見ると称して、世界を旅行しました。こうして外国に出ていったのは、名東の、国際教育の影響だったのかもしれません。自分の中で、外国へのバリアーは感じていませんでした。
さて、こうして建築学生だったその後、10 年間ぐらい、自分のできることを探して、もがくことになります。

名東高校で学んだこと

「どうしやうもないわたしが歩いてゐる」
（種田山頭火）
変な人でも……生きようとしていたら正常な人
『正常と異常のはざま』？講談社現代新書
今を生きる……世界史は今を生きるための知識
人間界の外……数学は美しい
「どうして自分はこうしてしまうんだろう？」
自分の感情をも科学的に客観視する
……→『スタンフォードの自分を変える教室』

【058】自分自身も、自分の周りも、思う通りにはうまく動かなくて、とかく、ままならないですよね。そんな時に、名東の図書館で読んだ本のフレーズが、蘇ります。種田山頭火全集が、入口から入って正面の右にありましたね。

私は、自分が一般から外れているなという自覚があります。でも、変ということは、異常じゃないよね。変な人でもいい人にはなれるかもね。変わっていることがだめなことではなくて、人と違っている、ということは、自分の個性のはず。講談社現代新書や、新潮文庫は、名東図書館で読みました。名東高校でも、一人の個人として扱われたのが、自分を肯定する自信につながったと思います。
授業で覚えているのは物の考え方だけになります。
自分は、今を、生きている。自分は、一人で独立していられるわけではなくて、どうしても、歴史や、社会の中にある。
人間界のほかにも世界はあって、数学の世界は美しい。
けれども自分は、人間として生きている。そのへんのままならなさ。ありつつ。
自分を客観的に見つめて、なんとかなろうとします。なにかになりたいと願います。

calling

真砂(まさご)なす数なき星のその中に
我にむかひて光る星あり(正岡子規『竹の里歌』

叩いても開かなかったら、
そこは私にはドアじゃないかもしれない。
　× がんばり続けたら叶わない夢はない
それはあなたのものになる夢か？
がんばらずに別の所へ行く。
自分が活きる、別の需要を探す。

【059】

これから、仕事探しにからめて、三つのｃについてお話します。
名東の英語の授業で、calling という言葉を習いました。天職という意味です。天職ということについて、私がイメージするのは正岡子規のこの歌です。
こんなふうに、自分にだけ向かってまばたきしてくれる星があればいいんですが。
小説家になろうとして、小説を書いて応募してはおっこちていた私としては、
叩いても開かなかったら、そこは私にはドアじゃないかもしれない、と考えます。
私が、違うなあ、と思うのは、「がんばり続けたら叶わない夢はない」という、よく聞くフレーズです。それは、恵まれた人が言うことだと思います。
でも、それはあなたのものになる夢じゃないかもしれない。がんばらずに別の所へ行く、というのも一つのチョイスです。
自分が活きる、別の需要を探すということです。

challenging

僕の前に道はない
僕の後ろに道は出来る（高村光太郎『道程』）

前に古人を見ず
後に来者を見ず（陳子昂『登幽州台歌』）

自分の originalityを活かせる事をしようとしたら、
前人未到だった。
社会の中に小さな「隙間産業」がある。
それを埋めて、人の幸福度を増す。

【060】

それは、大変に challenging な道へ行くことになります。レールを離れて、より、困難なほうへ、自分の可能性を探して、進むことになります。
この詩のように言えば、かっこいいですが、はっきり言って孤独です。
自分の originality を活かせる事をしようとしたら、前人未到だった。それは、でも、よくあることだと思います。
社会の中に小さな、満たされていない「隙間」はきっといっぱいあると思います。
それを埋めることが、人の幸福度を増す仕事であれば、人に求められる仕事になるだろう、と思います。
たとえば、医療、福祉。たりていない隙間があって、困っている人はきっといっぱいいると思います。そういうところを、今埋めている人がいないから、その仕事に名前はついていないけれど、必要な仕事は、きっとあります。おなかを満たすお料理が、ハンバーグとカレーライスだけじゃないように、何も皆が皆、野球選手と保母さんを目指さなくったっていいんです。仕事だっていろいろあるはずです。誰もが大企業の会社員になったら、むしろ、会社の中で仕事がなくて困ります。高齢化にシフトしていて、もうこれまでどおりの事を続けていけばいい社会じゃないでしょう。数少ない若者には、無理に需要を見つけて会社を存続させるようなことではなく、社会の中で本当に必要なことのために働いてもらわなくては困るでしょう。

craft/art

アートって何？　影響力（世代 / 国 / 時代）
　　個人 / 普遍
art：　人工、美、人文学、芸術、技巧、手仕事
craft：　手工芸、技能
頭で考え、手で実現する。
総合芸術　composite art：建築、製本工芸、……

大きなこと、人の役に立つこと（次世代エネルギー、
医療、倫理…）technology
小さなこと、隣の人を喜ばせること、楽しくすること

【061】

アートって何？　「ゲルニカってよくわからない」と言われたりします。
キースヘリングはただの落書きなのか、それとも芸術なのか？
アートは、その影響力ではかれると私は考えています。
影響が、世代を超えていたり、さらに、国を超えて、時代も越えたら、偉大な芸術だと思います。
それは個人的に、心の中に入り込むアートでもあり、また、個人を超えて、普遍性を獲得するアートでもあるでしょう。
アート、クラフト。クラフトは美を含まない、という意味の違いはありますが、いずれも、頭で考え、手で実現する仕事です。
総合芸術　composite art は、建築や、製本工芸など。多数の分野に関わり、統合して一つの物を作ること。建築も製本も、立体を作ることになります。美的な、文系的な感性と、数字を積み重ねていって狂いなく仕上げる、理系の頭脳での設計とが、両方必要になる分野です。文理両道たつ人が、活かされる分野になります。
人の役に立つ、大きな仕事は、次世代エネルギー、医療、倫理のジャンルなど。technology の領域。私は、豊橋技術科学大学で、テクノロジーのほうをやるはずでした。
しかしそれよりも小さなことでも、大事なことはあって、隣の人を喜ばせること、明るくすること、人を楽しくすること。これは芸術の大きな役割です。音楽であれ、絵であれ、なんであれ。直接、生活の役には立たないけれど、必要とされるものがある。それが人生を豊かにする。人生を楽しませ、人生を肯定的に、また客観的に感じさせてくれる。それがアートの役割。そう思います。そして、そのためには、あたりまえのようですが、平和であって、自由な活動ができる社会であることが最低限の条件です。

ものづくりで心がけていること(1)

時間に余裕をもつ
　アイデア、ひらめきは実現する時間が必要。
　焦ると失敗する。

人の意見は聞かなくていいいこともある
　正統な意見と、無理な注文がある。
　最終的には自分が判断する。

【062】

私が、ものづくりで心がけていることについて、お話します。
時間に余裕をもつ
　焦ると一瞬で、それまでの地道な積み重ねを台無しにすることがあります。
人の意見は聞かなくていいこともある
　八方美人では、後になってから、自分の判断を後悔することがあります。

ものづくりで心がけていること(2)

メモをとる
　芸術の女神が、必要な時にいつでも
　ほほえんでくれると思わずに。
　忘れてしまったらそれっきり。

自然を見る
　一輪の花に、負けた！と思う。
　それでも、手でしか作れないものを作る。
こんな、あたりまえのことばかりですが、
時間は短縮できません。
明日一日で、大傑作を100冊！　は無理です。【063】

メモをとる
　あの時、いいこと思いついたんだけど、なんだっけ、というのでは形が作れません。
自然を見る
　自分がどんなに作っても、花のしべや、花びらの、合理的な設計と美しさにはかなわないなあと思います。
並べてみると、あたりまえのことばかりですが、手作りでは、時間は短縮できないものです。
明日一日で、大傑作を 100 冊作りたい！　それが「できない」と言うのは、自分の能力がたりないのではなくて、当然ながら無理な注文だからです。

仕事としては、一人の手でする範囲ですから、大儲けはできません。でも案外、小さなアートは、景気には左右されません。むしろ不景気で人の心が荒れるからこそ求められることはある。そして、景気がよければよいで、やっぱり人の心が空虚になることがあって、求められます。
また、仕事として、私が心がけているのは、win-win の関係になること。負ける人が誰もいないこと。たとえば、素材の、和紙を梳いている人も、豆本に紙が売れて、和紙に人の目がいって、嬉しい。すたれかけた活版印刷も、これが活版印刷だよ、と見せられて、そのよさが人にわかってもらえて、嬉しい。豆本を置いているお店も、豆本が売れて嬉しい。豆本を買った人も、心が癒されて、嬉しい。そんなかんじに、私が良い豆本を作ることで、皆が楽しくなれば、これは続いていくと思う。

＜５　豆本を作ってみよう＞

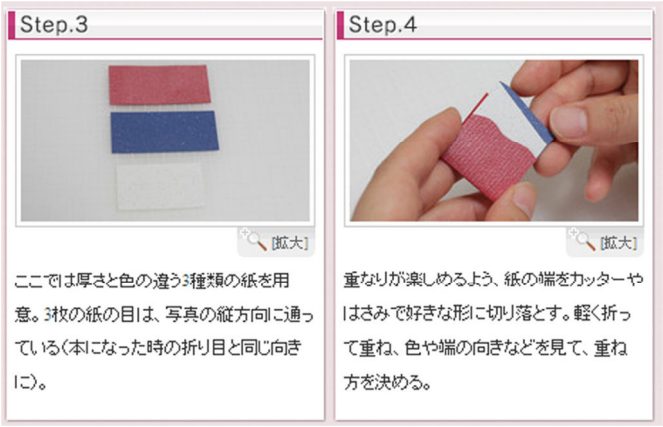
さて、大傑作はいますぐ作らなくても構わないので。それよりも、すぐ使えそうなことを、お教えします。

【064】

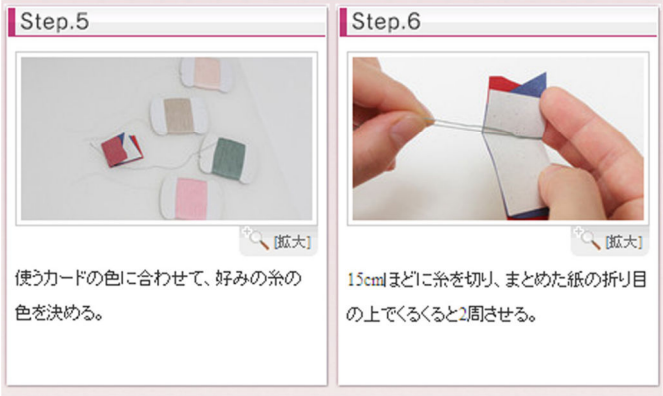
これが今日のお話の最後になりますが、これからの季節に、グリーティングに使えそうなクリスマスミニカードを覚えて帰って下さい。

【065】まずは、使いたい紙を曲げて、

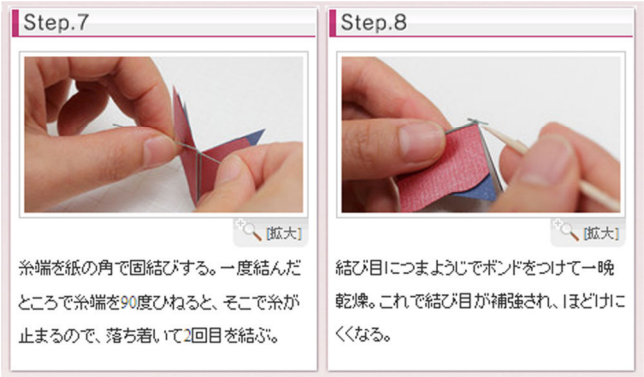
紙の目を見ます。紙が曲がりやすい方向が、本になった時、縦になるよう、つまり天地方向になるように、紙を使います。



【066】クリスマスを意識して、紙を選びます。紙の端は、わざとぎざぎざにカットします。手作りならではの、機械ではできない味わいと、自分の個性がこれで出ます。



【067】糸を選んで、まとめた紙の折り目の上で、くるくる、と二回回しかけます。この糸の色の選び方でも、個性が出ますね。



【068】糸の端を、結びます。結び目はボンドで塗り固めて、簡単にほどけないようにします。

【069】結ぶ時は、堅結びして下さいね。二回、糸をからめる方法です。表紙に、スタンプを押したり、ビーズを貼ったりしてデコレーションします。

【070】できあがりです。とっても簡単ですね。この作り方は、豆本づくりのいろはに載っています。小さなメッセージを書いて、ささやかに誰かに渡してみて下さい。今年は、買ったカードではなくて、心のこもった手作りのカードでは、いかがでしょうか。

さて、これで今日の話は終わりです。
質問のある方？
皆の間を回っていく本は全部見られましたか？
もっと詳しく、いろいろ知りたい、という方は、私のホームページを見て下さい。豆本で検索すると１ページ目に出てきます。

（質疑応答）

本の修理をしている人から「本の修理を始めたのはなぜですか？」
豆本は壊れやすいと言われていたので、壊れた本の壊れ方や、本の構造を学んで、壊れにくい豆本を作ろうと思いました。実際、それは壊れにくい豆本を作るために役立っていま

す。しかし、それ以上に、本の修理という作業そのものが、おもしろいです。修理のクラスに来ている他の方たちは、だいたいが図書館の人たちです。古い本や、壊れてしまった絵本を直しています。壊れて取れてしまったページが、またちゃんとつながって、ページがめくれるようになって、読めるようになって、人の所へ戻っていくのが、すばらしいと思う。

自分もクラフトを作っている人から「これから先、目が悪くなったらどうしますか？」
今はブルーベリーを採っています。隣接ジャンルの、時計職人さんが参考になって、あの方たちは、年を取るほど熟練のベテランで、ずっと現役で仕事される。どうやっているかというと、眼鏡にレンズをつけたりしている。アームがついた、スタンドタイプの拡大鏡もあって、その下に両手を入れて作業することもできる。そうした道具の助けを借りてやるつもりでいる。

カルトナージュをしている人から「買い物する店は限られていて、素材選びに苦労しています。東京だといろいろありますか？」
和紙で２，３軒、洋紙も２軒くらい回って買い物します。ただ最近は、私の要求も上がっているので、ニューヨークから通販で取り寄せたりします。わかっている紙なら、通販で買えます。紙の厚みは触ってみないとよくわからないことが多い。色味も、画面では違って見えることも多いけれど、わかっている紙なら。

小学生の子から「本の内容は、どうやって決めるんですか？」
最初にお話があって、この話を本にしよう、と思うこともあるし、先に使いたい素材があって、そのイメージで、中の話を書くこともあます。
私が本の内容として心がけているのは、ずっと持っていたい、大事にしたいお話を中に入れるようにしています。何度読み返しても、飽きないような。
本の中で一番大事なのは、実は内容。表紙がきらびやかで、本の中で大事なのは表紙のように思うかもしれないけれど、表紙は中身のためについているので、中身があってこその本。

保護者の方から「不躾だけれど、5000 円の豆本見本が回ってきましたが、売れるんですか？」
あれは限定 50 部の豆本で、今日持ってきたものが、38 番、27 番、18 番くらいなので、それが答えになります。たぶん余裕で売れるのは 20 部くらいだと思いますが、版を起こして印刷をすると、版代がかかります。その版代を、20 部の上にかけてしまうと、5000 円よりもっと高くなってしまう。だから、50 部作って、5000 円にして、部数と値段のバランスのいいところで決めています。

ただし、自分がかけた時間を時給で換算すると、もっと高くなって、一冊 5 万円くらいになってしまう。
たとえば、ふつうサイズの本で、革表紙で、オーダーメイドで、製本家にもし作ってもらったら、一冊 50 万〜30 万くらい。だから、製本家からは、私の豆本は安すぎる、といつも怒られています。

ＰＴＡ会長さんから「ペンネームはどうやって決めたんですか？」
小説を書いていた時に、郵便局へ今すぐ原稿を持って行って送らなければ、30 秒くらいしか時間のない時に決めました。純文学も書いていたし、ミステリなどいろんなジャンルで、自分の可能性を試そうと思って書いていたので、どんなジャンルにも出せる名前にしたかった。「赤川次郎」の上に来るように、「赤井」。青木が来たら負けてしまうけれど。名前のほうは、都市計画を勉強していたので、一字取って、都にしました。